



神戸淡路鳴門自動車道全通10周年

私たちの「道」はどこへ続くのか？

平成10年4月、建設費約5千億円の国家プロジェクトとして、建設が進められた「明石海峡大橋」が開通しました。これにより、本州と淡路島、四国を結ぶ神戸淡路鳴門自動車道も全通を果たしました。

平成20年の本年、この10周年を記念した行事が、神戸、明石、洲本、南あわじ、淡路、徳島、鳴門の各市で盛大に行われています。

開通前、「夢の架け橋」として、明るい未来が開かれるものと期待された大橋。しかし、10年を経過して、多くの課題も見えてきました。淡路島にとって、南あわじ市にとって、今後進むべき道を検証します。

人・物の流れに変化

道路の開通により、全国ブランドにまで成長した淡路玉葱や沼島のハモなど、淡路島の農産物や水産物が新鮮なまま全国各地へ流通し、「食」の宝庫としての知名度が高まりました。また、コンビニエンスストアや大型量販店など、全国チェーンのお店が島内各地に増えました。

観光客においては、開通前に比べると約500万人増加、毎年1300万人が淡路島を訪れています。世界一の長さを誇る巨大な吊り橋自体が、淡路島の新たな観光資源とし



▲高速道路を行き来する自動車（鳴門岬）

て定着しています。

また、高速バスの便数が増え、一日にこの道路を通る高速バスは、約350便。気軽に神戸や大阪、

四国などへ、短時間で移動することが出来ます。それまでのフェリーを使っていた行き来と比べると、格段に短縮されました。また、高速バスを使っている通勤・通学する人が増えました。

進む、少子高齢化

産業では、地場産業である瓦産業が、平成7年の阪神淡路大震災以降から、風評被害により低迷。島内全体を見ても、現在、景気は良いとはいえません。

その影響を受け、淡路島の人口が、平成2年に16万人だったのに対し、平成17年に

は15万人に減少しています。毎年、働く場所を求めて、多くの若者が島外へ流出し、少子高齢化が進んでいます。

南あわじ市では、これらの背景を受け、昨年度から、「少子対策」と「定住促進」を市の重点施策として、各種事業に取り組んでいます。

具体的な事業として、保育料第2子以降無料化や児童手当の拡充、通勤・通学者交通費助成などがあります。詳しくは、南あわじ市ホームページをご覧ください。少子対策課（☎44・3040）までお問い合わせください。

また、今年度からは、企業誘致をより一層推進すべく「企業誘致課」を設置。働く場所の確保に邁進します。

高い通行料を安く

南あわじ市から神戸まで、車で往復約1万円もする通行料。これが島の産業の低迷に関係していることから、淡路3市の関係者らで昨年5月、「神戸淡路鳴門自動車道利用促進淡路島民会議」（会長・中田勝久市長）を設立。料金低減化を求め、冬柴鐵三国土交通大臣など関係者へ要望や提言活動などを行っています。

架橋による地域活性化の「道」は？

「記念フォーラムからのヒント」

4月5日、淡路夢舞台国際会議場で、「全通10周年記念フォーラム」が行われました。その中で、「架橋による地域間連携、地域活性化」をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネラーとコーディネーターからの意見を紹介します。（順不同、敬称略）



▲中田勝久 神戸淡路鳴門自動車道利用促進淡路島民会議会長



▲星野満 本州四国連絡高速道路㈱代表取締役副社長



▲久門渡 ㈱ファーム代表取締役社長

▼中田 「橋で便利になったものの、島内は、少子高齢化が進み、不景気のまま。期待どおりにはいかない部分があった。高額な通行料金低減化に向けて関係機関へ要請していきたい。また、魅力ある淡路島づくりに、島民とともに汗をかき、取り組みたい」

▼星野 「料金低減化は難しい部分がある。魅力ある地域づくりに力を入れるべきではないか。観光地に魅力があれば、沖縄のようにお金をかけてでも観光客は訪れます」

▼久門 「淡路島は全国的に玉葱の産地として知名度がある。都会の人たちは玉葱の収穫体験を、お金を払ってでも大変喜んでくれています」



▲フレミング・エリックセン デンマーク・前コンソール市長



▲辻本智子 ㈱辻本智子環境デザイン研究所代表取締役所長



▲近藤勝直 流通科学大学情報学部教授【コーディネーター】

▼フレミング 「大橋だけでなく、企業活動や観光、文化、レジャーなどが円滑に行えるためのインフラ整備が必要。行政が主体となって、長期的な視点で、地域づくりを進めていくことが大切である」

▼辻本 「地方にとって、道はそこに住んでいる人の生活感や文化が見えてこないといけないと思う。ストーリー性のある地域開発を進めていく必要がある」

▼近藤 「淡路島の活性化のためには、観光を産業とした雇用創出を図るべきではないか。そのためには、観光産業の筋道をしっかり立てて、地域住民と連携して進めていく必要がある」

宮地真緒さんもセレモニーに出席



▲宮地さん

淡路島出身の女優、宮地真緒さんが、4月5日に淡路サードエリアで行われた10周年記念オープニングセレモニーに出

席、華を添えました。宮地さんは、「橋のあるおかげで、東京から帰って来やすいです」と話していました。

6月まで、記念イベント

本年4月～9月まで、神戸や徳島、淡路など道路沿線のまちで記念イベントを開催しています。ぜひこの機会に各地へ出かけください。詳しくは、公共施設に備付のパンフレットまたは、ホームページ（http://www.jb-honshi.co.jp/10th）をご覧ください。